

## 再検証対象の公立・公的病院及び高度急性期・急性期機能を有する民間病院の具体的対応方針（その2）

### つがる西北五広域連合つがる総合病院

#### 役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

##### 【役割・医療機能】

「つがる西北五広域連合」の中核病院として、また、西北五圏域の第二次救急医療機関及び救急告示病院として、引き続き当圏域を対象とした急性期医療を提供していく。

回復期に入った患者及び高度な専門的治療等が必要な患者に対応するため、県内の各医療機関との連携体制を強化し、当圏域の地域医療を充実させる。

##### 【病床規模の最適化に係る検証】

令和7年度時点の病床規模については、上記の役割を担っていくにあたり現状を維持する。

##### 【その他】

令和4年4月1日付けで「消化器センター」を開設し、内科・外科の連携を深め、合理的かつ効果的な医療を提供する体制を整えた。

令和5年4月1日付けで「脳卒中センター」を開設し、24時間365日、急性期脳卒中患者を受け入れる体制を整えた。

令和4年度より、HCU(高度集中治療室)の開設に向けて準備を進めている。

回復期相当の患者数増が想定されるため、回復期リハビリテーション病棟の施設基準届出を目指していく。

地域医療を担うかかりつけ医等を支援し、地域医療の確保を図るため、地域医療支援病院の施設基準届出を目指していく。

#### 医療連携の考え方

##### 【基本方針】

引き続き西北五圏域における急性期医療の大部分を担うとともに、回復期に入った患者については、「つがる西北五広域連合」の4施設や当圏域の他医療施設等との連携を図ることにより、転院・受入体制を強固にし、自宅退院や施設入居等に繋げる地域連携システムの構築に務める。

また、高度な専門的治療等が必要な患者に対応するため、弘前大学医学部附属病院や青森県立中央病院との連携体制を更に強固にすることにより、当圏域の地域医療充実に務める。

##### 【具体的な医療連携】

- ・つがる西北五広域連合4施設（かなぎ病院、鯉ヶ沢病院、つがる市民診療所、鶴田診療所）

急性期相当の患者紹介を受け、当院が診療を行う。電子カルテや画像の情報はシステム上で共有されており、医療連携体制は既に構築されている。

診療後、回復期相当に移行した患者は、4施設に入院・外来等を担っていただき、転院・リハビリや外来診療、自宅への訪問診療等に対応していただく。

なお、当院から2施設に応援医師を派遣し、外来体制を強化している。（かなぎ病院には整形外科医、つがる市民診療所には内科医）

- ・他医療機関

事前に紹介状を提出していただくことで、円滑に受診していただく体制としている。リウマチ科等5診療科は事前予約制を導入しており、脳神経外科は完全予約制としている。

- ・弘前大学医学部附属病院

主に悪性腫瘍の患者や、三次救急相当の患者受け入れを依頼している。

- ・青森県立中央病院

主に悪性腫瘍の患者や、三次救急相当の患者受け入れを依頼している。（青森県がん地域連携パス運用）

【その他】

当院の地域連携室を中心に、白生会胃腸病院、医療法人済生堂 増田病院、医療法人誠仁会 尾野病院、その他当圏域の医療施設やクリニックとの更なる連携を図り、当圏域の地域医療充実に務める。

## **つがる西北五広域連合かなぎ病院**

### **役割・医療機能及び機能別病床数の考え方**

#### **【役割・医療機能】**

津軽半島北西部における唯一の入院医療を提供できる医療機関として、引き続き、急性期一般病床（10：1）及び地域包括ケア病床の機能を提供するとともに、救急告示病院としての役割を担うものである。

#### **【病床規模の最適化に係る検証】**

当院は現在、一般病棟50床（急性期一般入院料4を13床、地域包括ケア病床37床）、休床20床の70床で届出している。

2025年以降も人口減少は進むものの、一定の医療需要があることから、当面は60床を維持していく見込み。一方、施設の老朽化が顕著になってきていることから、入院患者の傾向、地域受療率を見極め、大規模改修又は建替え規模の検討していくことが必要である。当面は、現施設で急性期・回復期病床の割合について検討を進めていきたいと考えている。

#### **【その他】**

前述のとおり、津軽半島北西部唯一の入院機能を有する医療機関として、当面の間は現在の病床規模を維持する。

今後は、地域の病床種別の需要と供給、民間病院との地域バランスを取りながら、地域医療の継続に貢献していくものです。

### **医療連携の考え方**

#### **【基本方針】**

現在、複数の診療科において弘前大学医学部附属病院、つがる総合病院、近隣診療所からの医師の派遣協力を仰ぎ、診療応援を受けながら外来及び救急診療を行っていることから、今後とも積極的な医療連携の継続に努めたい。

#### **【具体的な医療連携】**

##### **・弘前大学医学部附属病院、つがる総合病院**

当院にはない診療科の応援をはじめ、高度な専門医療、急性期医療を要する患者の対応については、上記紹介先医療機関の支援協力を受けながら、今後とも積極的な連携協力のもと質の高い地域医療の確保に努めたい。

##### **・近隣診療所、近隣介護施設**

かかりつけ機能を持つ診療所からの、診療、精査の紹介連携、回復期治療を終え在宅へ復帰した患者のフォローアップ、基礎疾患の急性増悪時の対応などの病診連携を積極的に行っている。また、近隣介護施設に関しても、慢性期患者の疾患管理、急性増悪期の対応などを行っている。また、食事介助や褥瘡対策などの施設スタッフを対象とした研修会の開催など、従事者同士の連

携も行っている。

【その他】

在宅療養支援病院として、在宅医療に積極的に取組んでおり、医療・介護問わず多職種とも円滑な連携をしている。

今後も、退院後の相談や地域の福祉施設、介護サービス機関との強固な関係性を構築しながら、患者個々の病態に適したサービスを提供できるよう医療・介護にかかわる多くの機関とを繋ぐ役割を発揮したい。

## **つがる西北五広域連合鰯ヶ沢病院**

### **役割・医療機能及び機能別病床数の考え方**

#### **【役割・医療機能】**

青森県西海岸地域における唯一の一般病床を有する医療機関として、引き続き、地域一般病床（13：1）及び地域包括ケア病床の機能を提供するとともに、へき地拠点病院の機能補完と、救急告示病院として救急医療の役割を担うものである。

#### **【病床規模の最適化に係る検証】**

当院は現在、一般病棟1病棟（地域一般入院料1を19床、地域包括ケア病床37床）、休床4床の60床で届出している。

将来的には、高齢化や人口減少等における回復期相当の患者の増加を見込み、1病棟に急性期10床を残し、それ以外の病床（50床）を地域包括ケア病床へ転換する予定としているが、老朽化が顕著な現有の施設設備では1人当たり面積要件から地域包括ケア病床の必要数が確保できないため、当面は、現在の病床数・機能により運営していく。

#### **【その他】**

前述のとおり、当地域における唯一の一般病床を有する医療機関として、病床規模を維持する。

### **医療連携の考え方**

#### **【基本方針】**

現在、複数の診療科においては他院及び弘前大学からの医師の派遣協力を仰ぎ、診療応援を受けながら外来診療を行っていることから、今後とも積極的な医療連携の継続に努めたい。

#### **【具体的な医療連携】**

- ・弘前大学病院、つがる総合病院、弘前脳卒中センター関係

当院にはない診療科の応援をはじめ、高度な専門医療、急性期医療を要する患者の対応については、上記紹介先医療機関の支援協力を受けながら、今後とも積極的な連携協力のもと質の高い地域医療の確保に努めたい。

- ・つがる市民診療所、深浦町深浦診療所、あじがさわクリニック等民間クリニック関係

上記紹介元医療機関との関係性については、研修医の受け入れ、診療応援等当院常勤医の派遣を通じ連携協力関係を構築するほか、地域におけるかかりつけ医の役割機能の発揮とともに、入院加療が必要な際の当院の活用など、引き続き質の高い地域医療の確保に努めたい。

#### **【その他】**

- ・医療と福祉介護の連携（地域連携室の取組）

今後、各診療機関との円滑な連携はもとより、退院後の相談や、地域の福祉施設、介護サー

ビス機関との強固な関係性構築により、患者個々の病態に適したサービスを提供できるよう医療機関、介護施設をはじめ、行政や福祉にかかわる多くの機関とを繋ぐ役割を発揮したい。